

十二月十八日

ここ数日中国大陸のプロジェクトの件で李祖原と行動を共にしている。色んな議論もした。強い人間と話すのは相変わらず面白い。が、エネルギーに押され気味。又、強い奴は同じ事を繰り返して繰り返して強く続けて主張する単純さを持っていて、それに対応するのは私は少々苦手なのだ。バウハウス大学ではMr. Zimmermanが学長に再選された。J・グライターにとっては願ってもない事だ。年内に来年の運動拠点の構想を確定しなくては。ようやくにして、体力気力が少し回復してきているのを感じている。今日は午前中、スタジオボイスの原稿「森の生活」を書き上げ、午後油壺の月光ハウスに月光号オーナーの並木氏を李祖原と共に訪ねた。若松氏より依頼されていたロシアのスター級ヨットのチャンピオンが日本にコネクションを求めているので、その件の依頼。長男が並木氏のオーシャン・クロスヨットのクルーになったので、そのあいさつも兼ねてうかがった。十七時過ぎいとまする。

十二月十九日 日曜日

午前中西早稲田観音寺。

午後読書。一日休み。

十二月二十日

早朝批評と理論連続討議の最終回の草稿の編集を二時間半程。

磯崎新、鈴木博之のダイアローグの組み代えは困難なので頭に和

様化の問題をまとめて入れて、あとは自然に流れに任ず編集としてみた。今日は昼前に三沢千代治氏と会い、午後新木場の現場へ、夕方研究室に戻らねばならない。

昨日は久しぶりに辻邦生の安土往還記、開高健等を通読、乱読した。李祖原を真似てベジタリアンになってみるか、少なくとも酒は三年位やめてみようかと決心した。やめられなくとも、せめて一杯だけとか、二杯までとか、ようするに克己心の問題である。六〇才になってこんな事しているようでは救いも何も無い現実である。辻邦生の大殿、つまり信長の生き方、事を成すことへの合理性を全く私は持たないのだ。酒呑みたくなったら日記のメモかカバコーラム書くのも良いだろう。問題は友人と会う時だ。酒ヤメタとは言えないか。コレワ。李はしかし、スッパリ止めてしまったからなあ。李の生き方は実に大段的であるな。十一時三〇分新宿ヒルトンHOTEL三沢千代治さん李祖原と昼食。十四時東京駅。新木場現場へ。十七時前迄。十八時研究室。M2ゼミその他二十一時過ぎ。

十二月二十一日

七時半世田谷村発。車で羽田、九時半着。ANAは新しい第二ターミナルに引越していて、新しいだけの何の取得もない建築である。十二時過ぎ福岡。忍田さんと山中へ。二階で十五時半迄打合わせ。十六時現場近くの会館で三菱地所、竹中工務店と打合わせ。十七時地元工務店と打合わせ。十八時御所ヶ谷自治会会合に出席。二〇時忍田さんと夕食。焼魚。二一時時過博多駅前クリオコートにチェックN。二一時半想い立って三吉橋のまめ丹へ。何故かここに来るとホツとして休まるのだ。森千代子さんも相変わらずお元気で年を取った風には見えない。一つの都市に一つの小料理屋

を知っていると、その都市は生きてくる。福岡では、やっぱりここだな。二十三時前ホテルに帰り、すぐ休む。明日は大阪か。

十二月二十二日

昨夜は夜中に二回程目覚めたか。ここは駅ホテルなのだが別に取り立てて何の感慨もなし。何の感慨もしくは感傷さえも湧き起こらぬように全てのシステムが動いている。そのシステムと人間は赤裸々に対面しなくてはならない。空間にまだ存在意義があるとするれば、それはシステムと人間の関係のクッション材だな。三階で朝食後駅へ。プラットホームでこのメモを記している。大阪、東京へ次々と列車が発着して目まぐるしい。磯崎新の、名前は変わったが西日本シティ銀行が赤茶の姿を昔日と変わりなく何本ものプラットホームの向こうに姿を浮かべている。何本ものプラットホームにはスタイルがどんどん変わるモダンスタイルの列車が入れ替わり立ち替わり姿を見せる。まるでマシンのファッションショーだ。赤茶けた重い固まりの建築はそれ等と比較すれば余りに愚鈍に周囲の風景とは浮いている。勿論人々はこの赤茶けた建築の色がインドのアグラから運ばれたものとは知る由もない。ファティプールシクリの死せる都市から磯崎の観念によって持ち込まれたものだと誰も知らないだろう。あるいはすでに忘れ去られたか。しかし赤茶けたインド砂岩の建築は巖然としてここに在る。このたたずまいを私は好きだ。最新型の新幹線やファッションショーの如くに入れ替わり立ち替わり駅舎のステージに現れるマシーン達。赤茶けたデクの棒みたいな、ウドの大木みたいな建築。磯崎の言説の知的な素振りとは似ても似つかぬ、そのたたずまい。都市の中での愚鈍とも視える建築のたたずまい。

新幹線で小倉に着いたら、車窓から又も磯崎の建築が視えた。

船のマストを形取った展示場と、遊戯的思考のカラフルな確か港湾施設だったか。これ等からは博多駅で持った感慨は湧いてこない。何故か建築家は辛いのだナアと知るばかりだ。アレヤコレヤの手を打たねばならぬ現実に埋没してしまう必然だつてある。

しかし博多の赤茶けた愚か者奴と言いたくなる建築のたたずまいには、現実さえも現実に埋没してしまう、つまり産業や生活の本在在のだろう現実さえも、何か嘘っぽい、ニセモノの気配がしてしまう今の日本の現実に埋もれ切らぬモノが在る。

ニューヘブンのルイスカーンの遺作ブリティッシュアートミュージアムの体験もこれに似たモノであったが、あれは内部の光も体験したから殊更であった。ルイスカーンが辿り着いたマテリアルは焼き過ぎステンレススタイル。そして多重フィルターによる波動光空間であった。ただし、ニューヘブンは福岡と比べれば余りにも静澄な大学の町。

アレコレ考えているうちに今、広島に着いたところ。広島には丹下健三のピースセンターがあるな。

十二時過新大阪より地下鉄を乗り継いで谷町四丁目大阪NHKのアトリウム。シーザ・ペリが設計チームに入ったものようだが、これは三流品以下だな。コーヒーショップでおち合い、近くの合同庁舎十七階で打ち合わせ。十五時迄。その後、村野藤吾の歌舞伎座、心齋橋地下等を所用で見る。十五時四〇分新大阪よりのぞみで東京に向かってる。李祖原本日台北へ戻ったが、明日はソウル日帰りだそうだ。

昨日や今日の午前中の事がもう夢幻のようだ。